

五感を使った「水辺の観察と水質測定」活動の広がり

みやぎ生活協同組合 環境・福祉・文化事業部

はじめに

宮城県内には、江戸時代から舟運で栄えた河川のほか、都市に潤いを与え豊かな自然を提供し、文化を育み、親しまれてきた水辺がたくさんあります。しかし、経済成長期における水質悪化や河川の護岸整備に伴い、水辺が市民の生活から遠くなってしまうしました。

また、全国的に生活排水による河川や湖沼の水質悪化が問題となったことを背景に、日本生協連の呼びかけがあり、みやぎ生協でも水質測定活動を1992年（平成4年）から実施してきました。宮城県内全域で、メンバー（組合員）が自分たちで水辺環境を総合的に評価することにより、新たな水環境づくりに主体的にかかわっていくことを目的としており、04年度で13回目になります。この活動は、当初から専門家の協力と監修を受け、94年からは人間の五感を使った評価方法を取り入れ、参加者が水辺に親しむ機会を作り、総合学習を支援し、年々参加者数を伸ばしてきました。



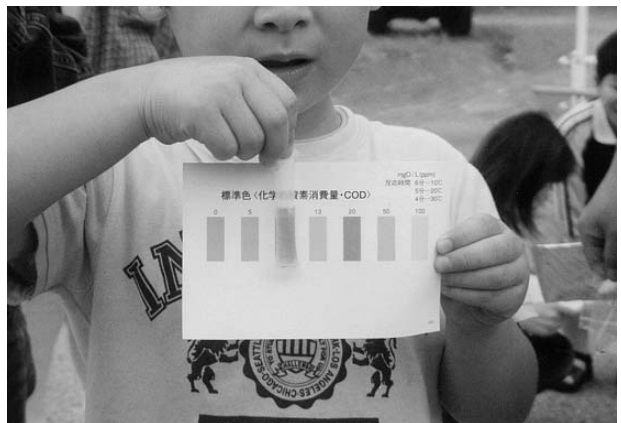
長沼で観察・測定（参加者からの写真）

「水辺の観察と水質測定」活動

みやぎ生協の「水辺の観察と水質測定」は、水質測定（CODパックテスト）のほか、五感を使って水辺を観察し、総合的な水辺の評価を行なっている

のが特徴です。この活動の立案にあたっては、山田一裕先生（当時東北大学大学院講師、現在岩手県立大学助教授）からご助言をいただきました。募集に応じた参加者により、毎年7月から8月にかけて宮城県内で一斉に実施しています。

この活動では、土手の緑量（視覚）、水の臭い（嗅覚）、周囲の音（聴覚）、水への入りやすさ（触覚）、水質（味覚）の五感に関わるものの他、水のにごり、水の流れの速さ、水辺の広さ、ごみの目立ち具合など、全部で19のアンケート項目により、参加者が水辺を総合的、多角的に評価することができます。また、調査地点の感想や最寄り施設や生物情報なども自由に記入してもらっています。



CODパックテスト



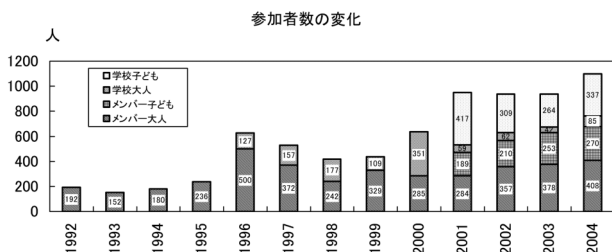
臭いをかいでみる



にごり具合を比べる

参加者は、募集に応じたみやぎ生協のメンバーや県内の小中高等学校、環境NGO（財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）の会員などで、13年間の参加者はのべ7,462名になりました。これまでに調査した水辺は、114河川、42湖沼、28海域ののべ1,696地点に及んでいます。また、子ども時代の五感を通じた体験が大変重要な意味をもつと認識されるようになり、この調査の手法は環境教材として注目され、自由研究や総合学習で生徒・児童が利用する機会が増えています。

参加者から届いた調査報告は、毎年、水質マップや報告書にまとめ、水問題に関する学習会や報告会で活用しています。02年度から手作りのダイジェスト版も作成し、04年度からは小学生向けの内容に変更しました。



石田川で橋の上から観察（参加者からの写真）

川マップの作成と流域ネットワーク

活動やこれにともなう学習会、体験発表、交流を通して、各地の身近な水辺のようすが明らかになり、のぞましい水辺のありかたを提言する機会が生まれています。鳴瀬川流域では地元の活動参加者が行政や他団体と協力して、「鳴瀬川・吉田川サミット」（93年～02年）を毎年開催し、地域の水環境保全をめぐる交流を行ない、地域の関心を高めました。また、阿武隈川流域のメンバーにより、01年に「阿武隈川流域ネット」が結成され、行政や漁協、福島県側の団体も含む諸団体との交流に発展しました。

さらに、04年に成立した「ふるさと宮城の水循環保全条例」の制定に対しては、議員や行政との意見交換の場や条例の活用についての学習会を設定しました。

紙製の川マップ5種類（七北田川・鳴瀬川・阿武隈川・白石川・迫川）は、MELONが河川整備基金や宮城県の委託を受けて取り組んだものですが、「鳴瀬川・吉田川サミット」や「阿武隈川流域ネット」など各地域の「水辺の観察と水質測定」を母体としたネットワークにより、みやぎ生協と共同で順次作成しました。これらのマップは、教育現場での環境活動や水辺に親しむ市民活動で活用されています。

五感を使った「水辺の観察と水質測定」活動の広がり

みやぎ生活協同組合 環境・福祉・文化事業部



「宮城の水辺データ」プロジェクト

02年4月、山田先生の進言により、それまでに集まった調査報告や水辺の写真をウェブ上に掲載し、広く環境教材として活用してもらうためのプロジェクトを立ち上げました。

「宮城の水辺データ」プロジェクトには、環境教育や情報教育の視点から助言いただきたい方や地域で水辺に関わっている方に参加していただきました。小学校教員2名、大学の専門家2名、測定参加者（地域別、小学生を含む）5名、環境NGO代表1名、日本生協連環境事業推進室1名、ウェブ作成業者4名、みやぎ生協地域担当理事3名、事務局2名（途中理事、業者の交代あり）。

プロジェクトでは、掲載コンテンツのコンセプトや掲載内容の整理、コンテンツの展開例を討議し、河川整備基金の助成を受けられることが決まったこともあり、ウェブ作成業者をコンペにより選定しました。主要10河川の情報収集をプロジェクトのメンバーの中で分担し、川マップ「七北田川の巻」を11月に第1次公開し、この中でキャラクターの愛称を公募することを確認。キャラクターは、「残したい“日本の音風景百選”」に選ばれた広瀬川の「カジカガエル」とし、鳴き声もウェブ上で募集することになりました。そして寄せられた中から、愛称を「かじたろう」に決定、最終的に川マップ全

体を確認し、03年3月の本格掲載となりました。

データベース部分については、ウェブ作成業者と事務局の間で確認しながら五感・満足度データや写真を整理し、03年4月に本格開設しました。

このコンテンツの構築にあたっては、「七北田川の巻」の水生生物の写真やコメントのように、地域で活動している団体や個人からの情報提供など、多くの方の協力をいただきました。

ホームページ「みやぎの水辺ものがたり」

このコンテンツは、流域を紹介する「川マップ」と過去の調査結果を比較できる「データベース」から構成されています。

「川マップ」では、県内の主要で身近な河川を取り上げ、川の名前の由来、川の全体像、歴史とくらし、自然と生き物、見どころ、学びどころ、遊びどころ、資料を紹介し、それぞれの河川の上流から



このホームページは、(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けて作成しました。
ホームページに掲載されている記事や写真・画像の無断転写・転載を禁じます。

<http://www.miyagi-mizube.com/>

トップページ	データベースを調べる	データベースについて	リンク集
調査の概要	同じく行くに	みんなのECロガー	おやまき協会のトップ
トップページ / 産直川沿いのまち / 中津川 / ずの川 / 水辺の環境			

鳴瀬川の上すべート【中津部／吉田橋・水辺の森校】



▲池田橋より少し上流め、
「下伊勢野 水国の楽院」で、
観音堂。



アクセス
松山町立下伊場野小学校裏

川マップ スポット説明の例

下流までの特徴的な観察地点4～6ヶ所について、そのスポットの説明、五感、満足度、行った人の感想、アクセス方法及び写真で紹介しています。04年までに11河川・51地点を掲載しました。

「データベース」では、調査地点ごとに過去7年に遡って、各年度の五感、満足度、写真の情報を見るができます。04年までに27河川、10湖沼、14海域の201地点を掲載しました。

このサイトの基本データは、すべて、五感を使った「水辺の観察と水質測定」活動を通して、長年にわたり、宮城県内に住む組合員や学校関係者によって一つ一つ集められた水辺の情報であり、多くの人が関わって作りあげたサイトである点が大きな特徴です。

これからの展開

この活動は、05年度で14回目になりますが、五感を使った調査は、以前にもまして、特に未来を担う子どもたちに体験してほしい内容のプログラムとなっています。子どもの頃に、自分の五感で感じ取った原風景は、将来の環境に対する考え方

や人間形成に大きく影響するものと思われるからです。そのため、このような水辺とのふれあい方や水辺の楽しさをさらに広く知ってもらう工夫を、ウェブや地域での実践を通じて重ねていきたいと思っています。このコンテンツを使った環境教育の実践を積み重ねその手法を紹介する、さまざまな地域で生まれてきたネットワークをつなぎ新たな共同事業を展開する、地域住民が主体となり宮城のふるさとの水辺づくりを進める、などです。

今後も、監修にご協力頂いている木村美智子先生（東北文化学園大学）を始め、多くの方の協力・助言をいただきながら、「水辺の観察と水質測定」活動と「みやぎの水辺ものがたり」の掲載を継続し、より使いやすく、役に立つ内容に進化させて行きたいと考えています。



江合川での観察のようす（参加者からの写真）

終わりに

このような名誉ある賞を第1回に続き、今回再び頂戴できるのも、山田先生を始めとする多くの方々のご指導と、長年「水辺の観察と水質測定」に参加し、調査報告を提出して支えてくださったみやぎ生協メンバーやNGO、学校関係者の方の協力あってのことです。また、これらの報告書やコンテンツをまとめるにあたって、膨大なデータの集計、分析、作図作業に、多くの方のお力が必要でした。この場を借りて御礼申し上げます。